

第 114 回番組審議会議事録

- 1 開催年月日 書面開催にて開催日は決めず、開催要項を令和 4 年 1 月 20 日に送付し
1 月 28 日を締め切りとして番組審議委員より意見を募った。
- 2 開催場所 書面開催にて開催場所の設定はなし。
- 3 意見提出について
 - 委員総数 13 人
 - 意見提出委員 8 人
- 4 議題 ラジオ高崎の番組内容について
 - 「特番交通事故ゼロをめざして～冬編～飲酒運転 贖いの日々」について
 - 「ビックカメラ高崎山本優引退記念特番キャッチ・ザ・ドリーム」について
 - 番組全般について
 - その他
- 5 議事の概要（別紙）
- 6 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、
方法及び年月日
 - ・書面 ラジオ高崎に備え置き
 - ・ホームページ ラジオ高崎ホームページ内 <http://www.takasaki.fm>
 - ・ラジオ高崎放送 令和 4 年 2 月 6 日(日) 午前 6 時 55 分～6 時 59 分
- 7 その他の参考事項

(別紙)

・審議対象番組 1「特番交通事故ゼロをめざして～冬編～飲酒運転 贖いの日々」の説明

交通事故加害者の手記「贖いの日々（東京都交通安全協会出版）」取材編集者へのインタビュー、手記の一部朗読を通して飲酒運転根絶を訴える 14 分特別番組。

本放送は令和 3 年 12 月 2 日、再放送は 12 月 4 日・6 日・8 日・10 日に実施済み。

・審議対象番組 2「ビックカメラ高崎山本優引退記念特番キャッチ・ザ・ドリーム」の説明

女子ソフトボール・ビックカメラ高崎、そして日本代表でも長年、主砲として活躍した山本優選手が、引退を表明。東京五輪金メダル、日本リーグ 3 連覇など数々の栄光を手にした山本選手のソフトボール人生を振り返る 29 分特別番組。

本放送は令和 3 年 12 月 28 日、再放送は令和 4 年 1 月 3 日、15 日に実施済み。

※審議対象番組 1・2 とも、アップロードした OA 済素材をダウンロードして視聴する方法と、CD の送付による視聴の両方を採用。

・委員各位の意見

審議対象番組 1「特番交通事故ゼロをめざして～冬編～飲酒運転 贖いの日々」について

- 飲酒運転抑止にこれほど効果的なコンテンツはない。これ以上があるとすると、事故を起こした本人が自分の口で語ることだろうが、異なる事例を示してより説得力を高めるのは相当困難。この方法であれば、毎年、年末の事故防止キャンペーンの恒例特番にすることもできるだろう。
- インタビュー＋手記の朗読という構成にメリハリがあったし、「贖いの日々」編集責任者の方の話し方に説得力があった。また、重いテーマだが、耳馴染みのある優しい声の女性パーソナリティが進行、朗読を担当することで、過度な緊張感や恐怖感を持たないで済んだ。
- 「贖い」とは、罪を償う、あるいはそれに相当することを行うことを意味するようだ。普段使わない言葉だが、その重要性は強く感じる。飲酒運転は絶対にしないと自分に言い聞かせているが、手記のように「これくらいなら大丈夫」と思ってしまうことがないと断言できるか…そういうことのないように、自分だけでなく周囲にも日々訴えたい。

- 油断や気の緩みが予想もしない事態を招くことは誰にでも起こり得ること。交通事故防止啓発として、ただ「気を付けましょう」と訴えるよりインパクトがある。被害者だけではなく、加害者やお互いの家族にまで及ぶ苦しみが手に取るように分かった。まずはこの高崎から、飲酒運転を失くすという発信は大きな意義があると思う。
- 生々しい手記の朗読が、直接リスナーへの注意喚起に繋がると感じた。ハンドルキーパー運動の推進など、「飲酒運転をしない、させない」を他の番組内でももっと PR する必要があると思う。
- ある日突然前触れもなく交通事故の被害者・加害者になってしまうのが現実。番組を聞き、改めて常に安全運転を心がけようと思った。可能であれば、ほかの手記も紹介してもらいたい。
- 年末の飲酒が増えるタイミングに最適な内容。今後、交通安全週間にあわせて県内 FM 各局と連携をとった放送をするのはどうか。
- 今後も啓発として、歓送迎会シーズンや年末年始など酒を飲む機会が増える時期に、「贖いの日々」の1編を朗読する番組を放送してもよいと感じた。
- 運転中の聴取が大半だと思うが、それだけにリスナーは当事者意識を持って聞いたはず。ラジオが社会課題のソリューションに力を発揮することを示す好例だった。
- 番組の全体として淡々と聞かせる声のトーン、BGM と真面目に真剣に聞いて欲しいという演出がなされており、素晴らしい構成だと感じた。
- 当事者の手記の朗読を入れるなどして工夫されており、事故の恐ろしさを伝えることが出来たと思う。

審議対象番組 2 「ビックカメラ高崎山本優引退記念特番キャッチ・ザ・ドリーム」について

- ソフトボールシティ高崎。番組を通し市民の関心を高めることで更に盛り上がると思う。タイトルにもあるように、活躍するスポーツ選手の姿は夢であり希望。大人たちにとっては励みとなり、将来を担う子どもたちにとっては夢を重ねることができる。高崎で活躍するスポーツ選手に広くスポットを当てて欲しい。

- 山本選手は地元北海道で引退表明をしたことなどから、引退を知らない高崎市民も多いとみられ、ニュースとしても価値のある特番。引退後は地元で指導者としての道を歩むことや、「神ゲッター」の裏話などリスナーが知りたい情報がいくつも明らかにされ聴きごたえがあった。
- フリートークの形式はいいが、これだけのロングインタビューとなると、キレのある質問と応答を維持するのは困難。中盤と最後に山本選手のリクエスト曲を流したが、そうした工夫がもう少しあってもよい。トーク部分を更に編集で整え、話題の転換点では敢えて間を取るなど、リスナーが一息ついたり、余韻を味わえたりするような演出、工夫ができると、ラジオ番組としての面白さが一層引き立つような気がする。
- 「風邪をひかない」「高崎は風が強い」「雷が好き」という山本選手のプライベートな話に親近感を覚えた。大きな手術、長い期間の練習、コロナ禍など多くの苦勞を乗り越えて素晴らしい結果を残した偉大な山本選手の話に聞き入った。
- 山本選手の技術の高さやメンタルの強さが高崎で磨き上げられたことを、高崎はもっとアピールに利用すべきだと思う。今後、山本選手には札幌と高崎を繋ぐ存在として活躍してもらいたい。また、ソフトボールを始めとしたスポーツや運動の楽しさを伝えていく存在になって欲しい。
- 情熱を傾けて素晴らしい功績を遺した山本選手の心がポキッと折れる瞬間の心の動きがオリンピックによってもたらされたのかと思った。また新しい目標に向かっていくと思う。なかなか聞くことができない話だった。
- 山本選手とアナウンサーの掛け合いが明るくハキハキしていて聴きやすかった。また、アナウンサーの個人的な思いによる質問が、まさに山本選手のファンやリスナーが知りたかった内容だったと思う。
- 山本選手は「いつも明るく、笑顔」なんだろうかと、感じさせてくれる楽しい番組だった。プライベートのこと、東京オリンピックでの色々な話、これからの展望などをテンポよい紹介が心地よかった。

番組全般について

- 新型コロナウイルス感染症の注意喚起などを頻繁に放送していてありがたい。

- MUSIC STREAM は、興味をそそられる曲が多く流れており、選曲のセンスを感じる。
「偶然、出会えた」という幸福感が気分を高めてくれる。これもラジオならではの効果なのだろう。それだけに、このコンテンツの可能性を感じる。曲名を SNS でリアルタイムで紹介したり、後で調べられるようホームページで紹介したりするのもよい。たまには、マニアックな選曲をすると MUSIC STREAM の質の高さが伝わるかもしれない。
- MUSIC STREAM で、曲のイントロに入った直後にコマーシャルに切り替わることもあるが、繋ぎの時間を工夫した方がよい。
- 午後の時間帯に出演者がげらげら笑っているのを時々聞くが、品格のある放送を望む。

以上